

高津区おはなしアーカイブ

●河西 良則（かわにし よしのり）
さん

昭和14年生まれ 78歳
川崎市高津区溝口在住



◆ご家族のお話を

生まれも育ちも溝口です。

父は静岡県出身、母は東京都世田谷区出身です。両親の出会いは、母の実家が世田谷区で燃料店を経営しており、その奉公人が父でした。なんせ、酒もタバコもしない好青年の父でしたから、見初められて結婚、この溝口に居を構えました。

昭和17年には妹、昭和21年には弟が生まれ、今も皆、近くに住んでいます。

この河西燃料店は、私が小学校5年のときに開店し、ずっと父と私と弟で経営してきました。隣の理髪店「ヘアサロン カワニシ」は、妻が理容師なので、この燃料店を建て替えるときに、店の一部を改造し

ました。現在、息子が継いでいます。

◆どんな子ども時代を

幼稚園は、高津駅の近くに通いました。ここは現在の高津幼稚園です。幼稚園の思い出といっても、防空壕に入る訓練くらいでしょうか。宗隆寺の裏にある七面山の下に防空壕がありました。普段の外遊びのときはもちろん防空頭巾をかぶりませんが、訓練のときだけはかぶるのです。実際、空襲警報が鳴ると普通のおじさんが私らを壕に誘導、敵機が去ると解除になり外に出ました。家でも、夜は電球の光が外に漏れないように笠をかぶせたり、寝るときには防空頭巾と着替えを枕のそばに置いたりしていました。確かその頃、幼いながらも、久本の方が爆撃に遭ったと聞きました。昔の岡医院のところで、今は公園になっています。

終戦は、7歳のときでした。

その後、小学校は高津小学校、中学・高校は攻玉社に通いました。攻玉社は、東急目黒線の不動前駅にありますが、攻玉社の生徒たちが降車するときは、生徒だけでドッとホームに溢れていましたね。

◆当時の遊びは

小学校の1、2年はベーゴマも流行ったけど、なんと言っても野球ですよ。母がビニールシートのような生地でグローブを作ってくれました。ボールはペコペコのゴム

ボールみたいなもので、それさえ無いときは、新聞紙を丸めて作ったりしました。まあ、そんなボールですから、長持ちはしませんでしたけどね。

簡単な三角ベースを作って試合をしましたが、運動靴だって、今と違って紐なしだから早く走ったら脱げちゃうんだよね。

昔は自動車の心配など無い道だから、野球の場所はやりたい放題で、ボールが近所の家の窓ガラスを直撃してよく謝りに行っていましたよ(笑)。

終戦後、キャッチボールをしていたら、アメリカ人が、わからない外国語で話しかけてきて一緒にキャッチボールをしましたよ。そのあとに、チョコレートをくれたけど、その美味しいことと言ったら！なんせ、こっちは食べたことがないんだから……。喜んで食べる子どもたちを見て、親たちは複雑な気持ちだったろうねえ。

紙芝居屋さんも来ましたが、ねり飴を買わないと見せてくれないし、なかなか始まらなかったですよ。

女の子の遊びは、縄跳びや石蹴りでしたが、夏休みや冬休みは皆でよく遊びました。冬休みは、雪合戦、雪だるま作り。夏休みは鬼ごっこ、戦争ごっこです。戦後、62部隊の塹壕がありましたから、そこでかくれんぼをしたり、今の国道246号の切通しの上で遊んだりもしました。

また、この辺は川が多かったので、よく川遊びもしました。二ヶ領用水から下流の

各地域へ水を正確に分けるために造られた久地円筒分水がありますが、そこをスタート地点にして、よく泳ぎました。たらいに乗って2人で漕いだりもしましたが、大人は誰も止めなかったし、怒りもしませんでした。自己責任というやつですよ。でも、今でも思い出すと恐いのが、誰か大人が「子どもが、浮いて流されてるー！」と言って、救助してくれたことがありました。なんと、それが私の妹だったのですよ。あのまま、流されて途中のトンネルに入ってしまったら、と思うと……。

中学になってからは、大勢のサラリーマンが落とす小銭を見つけにいていました。当時は木でできていた溝ノ口駅のホームの下に蓮の池があり、そこにサラリーマンたちがお金をよく落としていたのです。

高校に入ったら、16歳でオートバイの免許を取り、当時はヘルメット無しで砂煙を上げてブンブン飛ばしてみたりしました。それが当時の遊びといったら遊びですね。

◆父上との思い出を

小学校2年頃だったでしょうか。ある朝、皆で朝飯を食べてると「ただいま」と突然、男の人が玄関に立っているのです。家族は何がなんだかかわからずにポカーンとしていましたよ。そのうち母だけが、「おかえりなさい」と答えたような気がします。父が満州から突然帰ってきたのです。いやはや、

驚いたのなんのって、やっと「あー、父ちゃんだー！」と声が出ましたよ。約3年ぶりに会ったのですが、思ったほど、やつれてなかったですね。

父はよく戦地の話をしてくれました。色々な戦地に行かされたこと、馬の管理や小屋の掃除をしたこと、満州で自分の弟にばったり会えたこと、機関銃を撃っていたら、隣の玉送りの兵士に敵の弾が命中、即死したこと等々。やはり一番、悲しそうに話していたのは、現地で捕らえた無防備の敵を撃てと命令されても、まともに、前を向いて撃てなかったという話です。

我が家に帰ってきて、しばらくの間は、敗戦の想いでしょうか、少し家の中でボンヤリと過ごしていたようですが、そのうち、こうはしてられないと、家族の食糧を確保するために、買出しなどに動きだしてくれました。

早朝、アサリやシジミをどこからか仕入れて売りに行ったり、仕入れができない時は、登戸のダムところで親父と釣りをして、釣った魚を食べていました。

本当に食糧難でした。給食といっても粗末なものです。小学校3、4年の頃は、おかず無しでコッペパンと脱脂粉乳、5、6年は弁当持参です。白米なんてクラスに2人くらいだし、普通は芋や干し杏子です。近くにてんぷら屋があって、先生におかずを買いに行かされるのが嬉しかったなあ。

実は、行くたびに先生がコロッケを1個くれるのですよ。

当時は、おやつなんて無いし、栄養失調らしい子どもがフラフラと道を歩いていました。一度、私の目の前で十代の女の子が倒れたので、びっくりして家に飛んで帰り、干し杏子を持ってきてあげました。女の子はそれを嬉しそうに食べて去って行きました。忘れられないですねえ。

私が小学校5年のとき父がこの店を開き、私も父と一生懸命に働きました。

燃料屋は氷も売るので私もこの店を継ぐつもりで、22歳の時に氷屋にアルバイトに行きました。しかし、いろいろな会社に氷を運びながら、電気冷蔵庫に変わる時代が来るだろうと感じていました。

親父は昭和53年、67歳の時に肝硬変で亡くなりましたが、あの真面目だった父が戦争で酒を覚えてしまい、メチルアルコールも飲んでいたようでした。また、親父は家族のために、ヤミ米を買いに行き、見つかったは何回も警察に捕まっていました。

大晦日の夜遅くまで配達で働き、正月は、駅近くの闇市の後のマーケットに連れていってくれましたっけ。身動きがとれないくらいの人で賑わっていましたねえ。

お節料理は食べられなかったけど、お雑煮で十分でしたよ。

◆祭りについて

若い頃は私も化粧をして神輿担ぎをしていたのですよ。父が亡くなり、40歳過ぎくらいからこれまで、約35年間、子ども神輿に携わっています。神輿と太鼓で子どもたちと山車を引きながら、土日で私の管轄の15軒くらいの商店を回ります。そして1軒1軒回りながら、その店の由来を話し、手締めをして、お菓子をいただき、大きな声でお礼を言うなどの手順があります。

子ども用の半纏の貸し出しもあり、この半纏を着てれば親も子も安心感があります。以前は店側が、引率のお母さんや子どもの分で約80人分のお菓子を揃えてくれましたが、今や子ども的人数が減って、半分くらいになってしまいました。今年はずうちの神酒所（片町神酒所）の太鼓の皮の張替えや神輿の金具のメンテナンスで100万円近くかかりましたよ。

昔は、この溝口神社のお祭りは、9月15、16日に決まっていたので、15日などは高津小学校の生徒は午後は授業無し、午前中で帰らせてもらえましたよ（笑）。今、考えたら凄いやね。現在は15、16日に近い土日に祭りを開催することになったので、どの小学校の子どもたちも同じように参加できるようになりました。

大人神輿もかなり盛んですし、歴史があります。昔は、気の荒い若衆が、神輿を警察車両にぶついたり、よその家の門扉を壊したりするので、話し合いで「神輿渡御部

会を作って整然とやるならよし」と決めました。ほとんど高津区の人たちで、担ぎ方を勉強し、共通の半纏を決め、掛け声も「ワッショイ」から「セイヤ、セイヤ」に変わりました。

◆町の移り変わりは

昔は、この町の一帯は沼地と田んぼでした。川にも恵まれていましたし。

この家の建て直しのときに、地下27mまで掘ったら、岩盤が逗子の森戸海岸と同じと言われました。大昔はきっと、この辺もすべて海だったのでしょ。

戦後の駅前の闇市は、以前は「溝口大衆マーケット」と呼ばれ、今は「溝口駅西口商店街」と呼ばれています。闇市のときは、豆屋、洋服屋など多種多様な店が混在して、大勢の買い物客でごったがえしていました。10年前の2月4日、川の上で商売をしていた方々の店並みが放火で焼失してしまいました。屋根裏が全部繋がっていたからです。商店の再興はならず、残念なことです。

◆今、振り返って思うことは

駅前開発であつという間に地域が変わってしまったね。安くて良いものがあった「ヤストモ」という大衆マーケットもなくなっていました。

知人からはよく、「便利で良い場所に住んでるね」と言われますが、私はこの町のゴチャゴチャ加減が好きだな。人も車も一

緒の通りがあったりするのですが、なぜか事故も起きないし(笑)。昔の街道の名残りもあってレトロな雰囲気も残っています。そして、道幅が画一化されてないので、色々なことが簡単に決められない町というのが面白いのです。まあ、狭くたって、消防車と救急車が通れるから良しですよ(笑)。

(平成29年7月7日取材)